

はじめに

昨今のわが国をとりまく環境においては、かつてないほどの大きな台風、大雨による水害災害に見舞われ、国土強靱化の重要性が一層注目され、われわれ建設業に求められているものが改めてクローズアップされている、と感じます。

歴史を紐解くと、わが国は大きな災害からの修復、復興を繰り返しつつ、発展を遂げてきました。これは、先人たちの確かな建築・土木の技術がわが国を支えてきたことに他なりません。われわれ建設業に携わる者は、今一度、国家百年の計に携わる、誇り高き仕事を担う者として襟を正し、先人たちから培われた技術と行動力に謙虚に目を向けるとともに、来るべき未来へ向けた眼前の課題である「生産性向上」、「働き方改革」はもちろんとして、世界共通の目標である「持続可能な開発目標(SDGs, Sustainable Development Goals)」の実現に向けた確かな礎を足許に築いていかなければならないと考えるところです。

今回のフジタ技術研究報告では、建築系技術から、超高層架構技術、耐震・制振技術、構造部材の耐火解析技術など6編、土木系技術から、地盤の締固め技術、鉄道営業線の耐震工事技術の2編、環境系技術から、床衝撃音遮断技術、二酸化炭素貯留技術、農地での重金属浄化技術の3編のほか、材料系技術から、低放射化材料技術、ICT系技術から、災害復旧の迅速化を目指した建設機械の遠隔操縦技術など、計13編の論文を掲載しています。

いずれも弊社において現在重視している課題であり、これらの研究成果を積極的に現場に適用し、更なる技術改良や新たなニーズの発掘等のブラッシュアップに取り組み、当社が掲げる「高環境づくり」を目指す所存です。

本研究報告をご高覧いただき、少しでも皆様のお役に立ちになれば幸いと存じます。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくごお願い申し上げます。

2019年12月

株式会社フジタ 執行役員 技術センター所長 組田 良則